

夜に及て道春御前に於て是を讀む、

〔羅山文集五十五〕神代系圖跋

右神代系圖并二十二社諸國一宮三十神名奉仰寛永十八年八月下旬考舊記以撰集之九月廿四日進覽之、

〔羅山文集五十五〕本朝王代系圖跋

本朝王代系圖大綱奉鈞命撰之卽是編年錄首卷也歷代事蹟皇家族胤者具錄之於各篇也故別記正統嫡派及顯著者以明一部大綱也神武以來皇統一種百世綿々雖中華及異域未有如此之悠久矣美哉然其間父子相繼兄弟相及者順也或有母后臨朝皇女踐位者或有弟先於兄叔後於姪者或有從兄從弟代立而爲兩胤遂分爲南北者因是朱線亂雜而世系難考也而今發揮舊系專督朱繩以寸以咫以尺而曲之直之昂之低之長之短之以成焉朱線明而次第不亂次第明而禪繼易見矣古來帝譜未有如此擇而精者也寛永二十一年十月十四日進呈編年錄四冊自神武至持統時此冊亦成故副獻之、

〔和氣系圖〕此和氣系圖は、僧圓珍が家の系圖なり、おのれ信友伴さきに都にありける時或人の寫しもてりとき、て中人たて、かりてうつしたりき其本書は圓珍がものなりしを、三井寺の唐院の庫にひめをさめてありとぞ、繼紙を横に堅さまに長く書くだしたるがいとふるび墨きえて、字のさだかならぬところおほきに、紙のくちたるや虫ばみさへありて、見わきがたきを、からくしてまねび摹しとれるものなりといふを、つぎく、にうつし傳へたるものなりとぞ、さるは景行天皇の皇子、武國凝別皇子の苗裔のすぢくを、ひろくつりしるしたれば、古事考ふる證ともなりぬべくおもはる、に、書さまさへにめづらしければ、うつしたるなりけり、○中略

系圖 承和初從宅口於圓珍所